

## 研究紀要の発刊に寄せて

静岡県総合教育センター“あすなろ”は、今年度、平成7(1995)年の開設から30周年を迎えました。インターネットが普及し始めた開設当時と現在とでは隔世の感がありますが、グローバル化やデジタル化、特に近年のAIの急速な進展により、学校教育が大きな転換点を迎えていることは、疑う余地がありません。さらに、多くの人命を奪う戦禍や自然災害、感染症など、突発的で不安定な状況も追い打ちを掛けています。このように不確実な「VUCAの時代」を、子供たちがより良く生き抜くため、次期学習指導要領に向けた「論点整理」(R7.9)では、①「『主体的・対話的で深い学び』の実装」、②「多様性の包摂」、③「実現可能性の確保」の3点が、基本的な考え方として示されました。

“あすなろ”は、本県の教育の中核的存在として、「新しい時代の人づくりを目指す」を基本理念に、高度で専門的な「研究」を基盤に質の高い「研修」を実施して、学校や教職員を支援し続けてきました。研修の基盤となる研究では、教育現場で直面している課題の解決や、時代の要請に柔軟に対応できる教職員の育成を目指したテーマを設定し追究しております。この研究紀要は、当センターにおける研究の成果を、本県教職員をはじめとする多くの教育関係者の皆様と共有するものです。

本年度は、2つの研究の成果を掲載しました。教育相談課による「不登校支援の充実に向けた研究」では、多くの学校で直面する不登校児童生徒の理解促進や支援のため、『不登校の子どもを支える関係機関ガイドブック』を作成しました。関係機関と協議を重ねアドバイスをいただく中で、想定を超える充実した内容に仕上がりました。前述の次期学習指導要領の考え方、②「多様性の包摂」、③「実現可能性の確保」につながる研究です。小中学校支援課による「『主体的に学習に取り組む態度』の育成に焦点をあてた授業改善に関する研究」では、児童が「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当てた授業改善を促すため、「単元(題材)構想メモ」、「事後研修シート」、「単元(題材)構想ガイド」を提案しました。前述①「『主体的・対話的で深い学び』の実装」を具現化する研究です。いずれも、学校現場で解決が求められている重要な課題であり、小中学校、高等学校、特別支援学校、全ての校種の教職員の皆様の要望や期待に、お応えできるものと考えております。

“あすなろ”は、今後も研究と研修の一層の充実を図り、本県教職員の資質向上を通して、未来の創り手である子供たちの成長を支えていきます。

結びに、本研究を進めるにあたり、御協力をいただきました研究協力校を始め、関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和8年3月

静岡県総合教育センター  
所長 持山育央